

見面沢 檣楸

平行線を辿る。

fiction

東京都新宿区北新宿 2-4-21 ハイム柏木 103 号

佐々木さとし（見面沢 檣楸）

26 歳

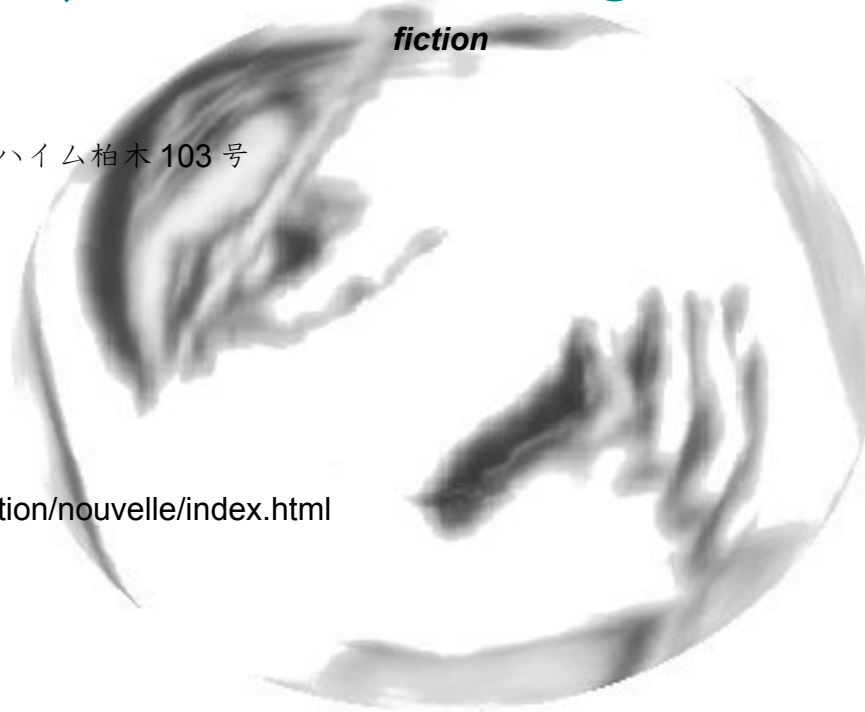
男性

フリーター（滋賀県出身）

<http://www.letranger.info/competition/nouvelle/index.html>

08056959876

mimosa@mimosa.name



文の闘争は まに ことばの境界 の外に出る ための努力だ。文学が身 を棄 出すのは表現できる も のの限 界から であ、文学を動かすのは語 彙の そ にはあ も のの 呼声 だ¹

22日零時零分、人生の半ばにして道を見失い、一人暗い部屋でみ切に終われたゴースト・ライターの柳田土偶は執筆中の画面を見ながら居眠りをしてしまい、彼の敬愛してやまないペテラン・シナリオ・ライターの泉二名子と誰もいない閉店後の喫茶店で対面した。彼女は発表のあてのない回想録を編んでいるという。その一部の朗読を聴いて土偶は出版を勧めるが――。彼女はシナリオ・ライターとして第二の人生を歩み始める前、舞台女優としてその青春を過ごし、若い刑事、遠藤慥哉と恋愛していた。そんな折りから、彼女の近い親戚が傷害事件を起こしてしまい、二人の関係に危機が訪れる。警察官は犯罪歴を持つ人間を家族にはいけないという規則があるからである。遠藤は警察手帳を捨てて二名子と結婚する道を選ぶ。二人の間には可愛い娘、タカネが生まれる。二名子は家族を守るために女優の道を諦め、シナリオ・ライターに転身する。タカネは成長するに従って朝露草のように美しい少女となり、母の意志を継いでか、女優を目指すようになる。認められた彼女はテレビの中へ。柳田土偶はタカネを恋慕し結婚を夢見て、一人暗い部屋に籠って彼女についての長い小説を書き始める。「平行線を辿る」というタイトルを小説に付けて、彼女の内面と外面、物理世界と言葉との全てを書き尽くすべく。

1 「サイバネティクスと幻影」イタロ・カルヴィーノ。

献辞（併謝辞）

久美子先生²に。

*Es dedicada a la catedrática Kumiko,
a su forma y a su esencia.*

2 国立某 T 大学助教授、自然言語処理。